

計画の趣旨等

- (1) 趣旨 本県の文化を取り巻く環境が大きく変化し、新たな施策・事業の展開等、状況変化等が生じていることから、計画を見直すもの
- (2) 計画の位置付け 富山県民文化条例第8条第1項に基づく文化振興に関する基本計画
- (3) 計画の期間 平成38年度までの概ね10年間

文化振興の4つの視点

- 新たな価値創出
 - グローバル新時代
 - ふるさと
 - 人づくり
- ・ ものの豊かさを追求する経済力に併せて、文化の力で心の元気を生み出すことが重要
 ・ 経済力と文化力の相乗効果で新たな価値を創出
 ・ 新興国の台頭で、世界が多極化する中、こうした国々との交流を深め、ともに発展
 ・ グローバル化の中で、地域のオリジナリティを堅持、発信力を強化
 ・ ふるさとへの誇りと愛着を育みながら、力強く生きていける社会づくりを推進
 ・ 富山県のアイデンティティを後世に継承
 ・ ふるさとに心の根を置きながらグローバルな舞台でも活躍できる人材や、経済力だけでなく、文化力も兼ね備えた人材、新時代への対応力を持った人材を育成

文化活動の現状と課題

- ① 県民の文化活動
 - ・ 県民の文化の鑑賞や創作活動等は、活発である。
 - ・ 子どもたちが文化に親しむ機会の拡充を図ることが重点施策として求められている。
 - ・ 芸術各分野の活動は活発だが、高齢化により愛好者の減少が懸念される。
 - ・ 県芸文協は全国的にトップレベルの活動を展開
- ② 文化施設
 - ・ 文化施設のハード面の整備は全国トップレベル
 - ・ 企画展示、教育普及活動、双方向の芸術文化体験や新たな交流の場の創出などソフト面を充実させ、観覧者の増加を図ることが必要
 - ・ ふるさと文学の普及、資料の収集・保管が課題
- ③ 高齢者、障害者の文化への参加
 - ・ 文化施設に足を運びにくい人々への芸術鑑賞、体験機会の拡充、ボランティアの拡充が必要
- ④ 次世代を担う子どもたち、青少年の文化活動
 - ・ 総合的な学習の時間等も活用し、学校での文化体験の取り組み充実が課題
 - ・ 若手芸術家、伝統文化・芸能の後継育成が課題
 - ・ 作品の発表や展示の機会の提供などが重要
- ⑤ 世界への文化の発信
 - ・ 利賀は、アジアの舞台芸術の拠点として一層の充実が必要
 - ・ 県芸文協は、海外文化団体と活発に交流
- ⑥ 伝統文化の掘り起こし、活用と発信
 - ・ おわら風の盆などの伝統芸能、世界遺産五箇山合掌集落等の文化資源を活かした発信が課題
- ⑦ 情報通信技術を活用した新しい文化の創造と発信
 - ・ SNS等新しいメディアを活用したPR、提供する映像情報等の充実が課題
- ⑧ 文化と産業の連携
 - ・ 魅力ある地域文化の観光資源としての活用が課題
 - ・ 「とやまの食」のブランドイメージの確立が課題
 - ・ 売薬や銅器に由来する最先端のものづくり文化が発展
- ⑨ 文化を活かした地域づくり
 - ・ 立山信仰や越中万葉等、地域には、特色ある伝統、歴史、文化を活かした活動が多いが、十分知られていない。
 - ・ 文化を活かした販促創出が求められている。

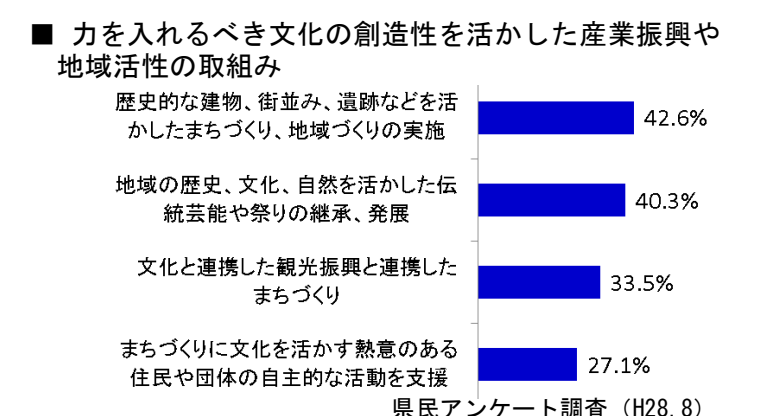
県民アンケート調査(H28.8)		全国	富山県
この1年間に、文化に関する催しに出かけたことがある		59.2%	79.0%
この1年間に、自分で演じたり、作ったりしたことがある		23.3%	24.5%

県民アンケート調査(H28.8)		H22	H28
児童生徒や障がい者、70歳以上の観覧料等の無料を知らない		—	66.7%
ボランティア活動をしていない		93.8%	94.1%

- 元気とやまを創造するために重点を置くべき文化振興施策
- 1位 子どもたちが文化に親しむ機会の拡充 53.9%
 - 2位 県民が文化を鑑賞する機会の拡充 40.6%
 - 3位 伝統芸能や文化財の保存・活用 23.8%
- 県民アンケート調査 (H28.8)

- ・ 国では2020年東京オリンピック・パラリンピック = 「文化の祭典」 ⇒ 全国各地で文化プログラムを実施
 - ・ 「山・鉾・屋台行事」のユネスコ無形文化遺産の登録
 - ・ 富山県美術館の全面開館、国際北陸工芸サミットの開催、大伴家持生誕1300年 など
- ↓ 国内外からの注目度が飛躍的に向上

国内外に富山の多彩な芸術文化を発信する絶好の機会



基本目標と施策の方向性

	■ 施策の方向性	○ 重点施策
1 文化活動への幅広い県民の参加	■ 身近なところで優れた文化を鑑賞する機会の充実	○ 優れた美術、音楽、演劇などを文化施設で鑑賞する機会の充実 ○ ふるさと文学に親しみ・学ぶ環境づくりの推進 ○ 巡回展示や出前公演等による鑑賞機会の充実 ○ 最新の情報通信技術を使った鑑賞の充実
	■ 文化の創造への支援	○ 美術、音楽、演劇などの練習の場の確保 ○ 指導者の確保と養成 ○ 発表の場・批評の場の確保 ○ ふるさと文学を深く調べる・発表する・創作への刺激ともなる場の確保
	■ 文化を通じた交流・文化活動への参加の拡大	○ 双方向の芸術文化体験と交流の機会の充実 ○ 支援する人々との協働の促進 ○ 県民の文化活動への参画の促進 ○ 高齢者、障害者等の文化活動の充実
2 質の高い文化の創造と世界への発信	■ 次世代を担う子どもたち、青少年の文化活動の充実	○ 青少年の芸術鑑賞、体験事業の充実 ○ 青少年の創作活動への支援と発表機会の拡充 ○ 子どもたちの国内外との交流の充実 ○ 学校教育における文化活動の充実と地域の文化活動への理解の促進 ○ ふるさと教育の推進 ○ 若い世代の文学活動の振興 ○ 伝統文化への参加と体験の機会の確保 ○ 若手芸術家の育成
	■ アジアを代表する舞台芸術の拠点づくり	○ 演劇の聖地にふさわしい舞台芸術空間づくり ○ 世界演劇祭の開催などによる舞台芸術の発信 ○ アジア7諸国の舞台芸術機関との連携による共同制作・人材育成事業の充実
	■ 特色ある国際的な文化振興事業の展開と発信	○ アートとデザインをつなぐ場の創出 ○ 世界ポスタートリエナーレトヤマなどの国際事業の開催 ○ 国際イベントの開催など工芸(KOGEI)の魅力の世界への発信 ○ とやま世界こども舞台芸術祭等芸術団体等による創造と発信の推進
3 文化と他分野の連携	■ ふるさとの歴史・文化の再発見と発信	○ 立山の自然や立山信仰の精神世界の紹介と魅力の発信 ○ 世界文化遺産の保存・継承と新たな登録をめざした取り組み ○ ふるさと文学の振興と発信 ○ むぎや、こきりこ、おわらなど貴重な伝統文化の発掘と発信 ○ 伝統文化・伝統芸能の後継者育成 ○ 地域の個性を活かした景観づくり ○ 富山の魅力を知る・学ぶ機会づくり
	■ 情報通信等技術を活用した文化の創造と発信	○ ICTやVR技術等を活用した体験型の情報発信 ○ 新しいメディア等を活用した文化の発信
	■ 文化振興と観光振興	○ 文化を活かした観光の振興 ○ 文化施設や文化財等を拠点とした観光の活性化
	■ 文化を活かしたまちづくり・地域づくり	○ 地域の文化資源を活かしたにぎわいづくりの促進 ○ 歴史と文化を活かしたまちづくりの推進 ○ ふるさと文学の振興とまちづくり ○ 国内外の文化的多様性にあふれたまちづくりの推進
	■ 豊かな食の磨き上げとブランドイメージの向上	○ 地域と連携した豊かな食の磨き上げ・発信 ○ 食や食文化のブランドイメージの向上・定着
	■ 文化力を活かした産業の振興	○ 文化力を活かした伝統産業・クリエイティブ産業の振興 ○ 文化力を活かしたものづくり産業の高付加価値化

1. 県民の視点に立った成果重視の計画

- 県民の視点に立って、施策の実施によってどのような成果がもたらされたかを明確にするため、成果を重視する。
- 基本目標を具体的にイメージするための参考となる「県民参考指標」を設定

■ 今後、新総合計画と連動し、平成 38 年度の指標を新たに設定

指標及び指標の説明	概ね 5年前	現況	平成 28 年度、平成 33 年度の姿		目標設定の考え方
			H28年度	H33年度	
芸術文化に親しむ機会が充足されていると思う人の割合 <small>県政世論調査において「音楽や演劇、美術など芸術文化に親しむ機会」について「充足している」と答える人の割合</small>	19.5% (H23)	37.7% (H28)	増加させる	増加させる	県民の意識に関わる数値のため、数値目標の設定が困難であることから、「充足されていると思う県民の割合の増加」を目標とする。
県立文化ホールの利用率 <small>県民会館、教育文化会館、高岡文化ホール、新川文化ホール、県民小劇場におけるホールの利用率</small>	62.2% (H23)	64.4% (H28)	66.0%	70.0%	H28 は、直近5年間（H17 から H21）での最高値（H20: 65.4%）を上回ることを目指す。 H33 は、さらに、H17 から H21 までの増加分相当の伸び（4%増）を目指す。
文化に関する国際交流事業（派遣、招聘別） <small>県・市町村・学校・団体等の国際交流事業数</small>	派遣 19 件 招聘 13 件 (H22)	派遣 26 件 招聘 28 件 (H27)	各 20 件	各 22 件	特色ある国際文化交流を積極的に支援することにより、H28 は、派遣・招聘ともに 20 件を目指す。 H33 は、さらに、派遣・招聘ともに、H17 から H21 までの招聘の増加分相当の伸び（2件増）を目指す。
地域文化に関係するボランティア活動者数 <small>指定文化財など地域の文化資源を対象として保存伝承、解説案内等の活動を継続的に実施している団体の活動者数</small>	13,430 人 (H22)	13,620 人 (H27)	13,750 人	14,000 人	地域文化に関係するボランティアグループ等への県民参加の拡大傾向を踏まえ、年平均 50 人程度の増加を目指す。

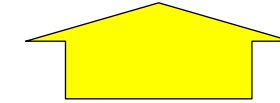
○新たな指標の導入

- ・ 総合デザインセンターにおける企業等からの相談件数
- ・ 県内で行われる芸術文化活動の創造に参加する外国人アーティストや作品数
- ・ 県内に自信をもって誇れるものがたくさんあると思う人の割合

2. 県民と目標を共有し、協働で文化振興に取り組む計画

- 文化の担い手 = 「県民一人ひとり」
- 県や芸術文化団体、企業などさまざまな主体の連携が不可欠
- 文化振興を図るため、各主体に期待される役割を明記

「富山から世界に、人と文化の輝く『元気とやま』の創造」の実現



県民＝文化の担い手 一人ひとりが主人公、文化活動への幅広い参加

連携・協働、支援

各主体	期待される役割
県	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県民が文化を鑑賞、創造、交流するための機会の確保 ・ 質の高い文化の創造、発信が行われるよう支援 ・ 観光、まちづくり、産業など他分野との連携を図るコーディネーター
芸術文化団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域、学校と連携した文化活動の推進 ・ 文化施設への企画運営への参加
企業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域文化活動への支援、参加
市町村	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域文化活動の振興、支援 ・ 文化施設の拠点化の推進
文化施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県民ニーズに配慮した運営